

県下の交通事故 (6月8日現在)

区分	事故件数	死者	傷者
53年	1,500件	45人	2,030人
52年	1,724件	30人	2,275人
比較	-13.0%	+50.0%	-10.8%



◇ 第40号 ◇

発行所

甲府市丸の内一丁目6-1
財団法人山梨県交通安全協会
TEL 甲府 (0552) 37-7827



夏は、いねむり・暴走・酒の事故が多い。

夏の交通事故防止県民運動

7月10日～8月31日

ゆとりあるプランで ゆっくり走ろう

間もなく夏の行楽シーズンと、児童・生徒の夏休みを迎えます。この季節は、交通事故が多発する時期でもあり、とくに八月は、年間を通じて最も事故の多い月です。この夏の交通事故を防止するため、交通安全思想の高揚を図り、県民総ぐるみによる正しい交通ルールの実践を習慣づける目的で「夏の交通事故防止県民運動」が、七月十日から八月三十一日まで実施されます。

運動の重点

- 一 歩行者・自転車利用者
とくに子どもと老人の事故防止
- 二 飲酒・暴走運転の絶滅
と、過労運転の防止
- 三 シートベルト・ヘルメット・反射材着用の推進

推進事項

- 一 交通安全教育の推進
(1)とび出しや、車の直前・直後の横断などによる事故防止のため、子どもと母親、老人等交通弱者の交通安全教室を開きます。
- (2)正しい自転車の乗り方指導のため、自転車教室を

開き、自転車大会も開催します。また、二輪車の事故を防止するため、ヘルメット着用の指導を行い、高校生に対しては、夏休み前に安全運転の講習会を開催し、指導を徹底します。また、二輪車の安全運転の大会も行います。



町で見かけたとび出し防止の足形

無事故で夏を乗り切ろう 疲れやイライラは禁物

夏は交通事故が激増する時期です。とくに八月は、一年のうちで一番事故の多い月です。夏はなぜ事故が多いのか、その事由を考え、事故防止対策を考えてみましょう。

不快指数と交通事故

道路のアスファルトが溶け、暑さにむせかえるような車の中はたまりません。不快指数の高い夏は、交通事故も多くなります。交差点、空のとき、イライラ、カッカしています。人間、空腹のときは怒りっぽくなるといわれていますが、とくに、うだるような

暑さの中で、一寸ぎみのノロノロ運転が続きます。と、車内での不快指数が高まり、ついにイライラがこぼれ出します。このときは、じっとガマンして、心にプレッシャーをかける、クールな運転に徹する心がけが第一です。

過労、いねむりに注意

いねむり運転の事故が多くなるのも夏の特徴です。夏は、海へ、山へ、お盆の帰省など、遠出も多くあります。暑い日中をさけて、涼しい夜間を走る人も多くなります。長距離や、夜間の運転は疲れが激しく、いねむりの原因となります。①休養は

家庭、地域、職域での話し合いを推進します。
(2)過労、いねむり運転を防止するため、ゆっくり走る計画の設定と、ゆっくり運転を呼びかけます。
三 シートベルト・ヘルメット着用の励行
(1)シートベルト・ヘルメット着用の励行を推進します。
(2)夜間における事故防止のため、明るい衣服の着用と、反射材の活用を奨励します。
四 交通環境の整備
交通安全を図るため、安全施設の点検整備を図ります。
五 広報活動の推進

足形踏んで「右よし左よし」

幼児のとび出し防止策
道路沿いの家の出入口や交差点の歩道にあるこの足形を存じますか。これは、幼児たちのとび出し事故を防ぐため、道路に出るときは右足形の上で立ち止まり「右を見て、左を見て、また右を見て渡

この運動の効果が高まるために、交通安全広報を実施するとともに、交通安全「愛の一声」運動を推進します。

余裕ということ

追突事故によせて 大久保 柔彦



安全のために

「せまい日本、そんなに急いでどこへ行く」という標語があった。この標語は、なんとせわしなく走り回る我が国の運転者たちへの警告だと思っていたのであったが、なんと、もう一つの意味を持っていったら、先行車に、べったりとへばり付くようにして走っている運転者に向かって、鋭い警告として呼びかけているように思えてくるのである。

いくら車の数が多いからといっても、車の運転の本質というものは変わるものではない。車間距離も考えないようなこんな運転を、いつか平気でやるようになってしまったら、これは世界に冠たる日本の、せわしない悪質運転技術の代表的スタイルの一つである。むやみやたらと、車線を変えて走ることが、正に世界的な日本の悪質運転の代表値なのである。

こんな運転をやりながら、事故さえ起こさなければいいではないかと口にする。それはそれで理由がたてられるかもしれないが、現実の結果はつまらぬ単独追突事故から、連続玉突き事故までを頻発させているのだから、理由などどうでもよい。ひとたび雨でも降ろうものなら、たちまち、あちらこちらで追突だらけ、これだけでは済まずに、あわてて追突を避けようとして、致命的な事故まで引き起こすに及んでは、どう弁解しよう、運転技術はおそまつだといわれても仕方がない。

こんな話を覚えている。「あつてい！ 車はすぐ止まれない！」車はすぐ止まれない！この標語の作者は、これを歩行者向けとして応募してくれた。だが、これを読んだ私の友人は、これは運転者向けだよ！と大きく叫んだのである。

車は人間に比べたら、遙かに大きな重量をもっている。この重量を、秒速十メートル二十メートルという速度で走らせているのが運転者なのである。ニュートンの力学を引き合いに出すまでもないが、走っている車は、すぐには止まれないのである。このことを理解していなければ、運転はできない。追突はおろか、横断歩行者までもはね飛ばしてしまうだろう。

だから、運転に必要なものは、余裕距離の重要性なのである。これが、車間距離の保持ということにつながる。これを至らねば、とも自動車など安全には扱えないものではない。だが、いつの間にか心情的運転に引きずり込まれると、理屈もなかつたハンドルに頼り、ブレーキに頼りっぱかりの余裕のない運転者になってしまうのである。この標語を一目読んだとき、これは運転者こそ聞かせるべきだ！と叫んだのは、この辺の意味を含んでいるのである。

（全日交協・研究部長）
自動車の損害賠償責任保険に加入しましょう
すべての自動車（原付自転車を含む）は、自動車損害賠償責任保険に加入してないと走行することは禁じられています。
とくに、原付自転車は、無保険で走行している方が相当ありますが、それ自体が違反になるばかりでなく、事故を起こせば、多額の損害賠償は当然自己負担です。今すぐ、自分の車の保険を確かみましょう。

交通事故

七年連続減少めざす

県安協定期総会開く

県安協は、五月三十一日ニュー機山において定期総会を開き、五十二年の事業報告並びに決算報告と山梨自動車学校校舎新築などを審議し、任期満了に伴う役員改選を行いました。総会は、中村太郎会長を議長に選び、金谷県警交通部長列席のもと、副会長

理事、監事、評議員四十五名が出席して開かれまし。はじめに中村会長が「昨年度中は県警の指導とみなさまの協力により、各事業も予期以上の成果を収めることができ、厚くお礼を申し上げます。本年度も、県警の交通重点施策に沿



ニュー機山で開かれた 県安協の定期総会

い、交通安全運動を推進し交通事故七年連続減少をめざし、とくに交通事故死者の抑制に努力を傾注しなければならぬ」とあいさつし、金谷交通部長も、安協の協力活動に感謝の意を表し、困難な現況のなかで七年連続減少を実現するための協力を要請しました。

△副会長 中村太郎 △副会長 高村捷治(富士吉田)内藤 登(韮崎)小田切彰(南甲府)平井一満(甲府)小林英雄(諏訪)▽専務理事 吉田文男▽理事 清水嘉幸(小笠原)山本滋(長坂)川村藤十郎(南都)村松伸三(市川)兩宮崇敬(石和)田中正之(日下部)高野慶貴(塩山)

△星野忠治(都留)藤野 要(大月)加藤和男(上野原)△監事 小沢照次(甲府)中込太四郎(南甲府)鈴木 要吉(大月)▽評議員 小林貞治、河西定男、萩原茂實、岩田朝造(甲府)望月謙一、今井照博(南甲府)名取藤吾(小笠原)安部吉博(韮崎)堀内益信(長坂) 柳沢武史(急)



交通事故防止の功労賞盾

県安協に功労賞

警察庁長官表彰

県交通安全協会は、このほど東京商工会議所において開催された、全日本交通安全協会主催の交通安全協会専務理事、事務局長会議の席上、浅沼警察庁長官、水野全日本交通安全協会会長連名による功労賞(盾)を受賞しました。これは、本県が交通事故

死亡者半減の目標を達成したことに対し、交通安全協会の功績が認められたものです。この表彰は、県安協の役員をはじめ、地区協会の役員の方々が、会員の皆さんに交通安全運動に対する活動の賜物で、この機会に厚くお礼を申し上げるとともに、今後とも交通安全運動の推進と交通事故防止のためのご活動をお願いいたします。

安協の交通災害保障を助成

保険掛金の半分を県が補助

安協の役員等が、交通安全のために街頭活動を行った際に、交通災害を受けた場合は、傷害保険に加入した地区安協に対し、掛金総額の二分の一以内(最高七万円)を補助することとし、本年四月一日から適用しています。なお、地区安協会長が、

山梨県交通安全推進協議会、交通安全活動従事者傷害保険事業補助金交付要綱

第一条 この補助金は交通安全活動従事者のため傷害保険に加入した各警察署単位に構成されている交通安全協会(以下地域交通安全協会という)に対し予算の範囲内で補助金を交付することを目的とする。

第二条 この補助金の交付の対象は、交通傷害保険事業を行う地域交通安全協会とする。

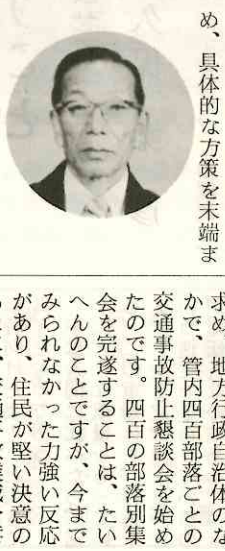
第三条 この補助金の額は傷害保険掛金総額の二分の一以内とする。

部落別懇談会を

山本 滋

今年はどうしたのか、私も管内を巡り、管内に浸透してない実情に問題があるのではないかと感じます。そこで私は提言をいたしました。春秋の全国交通安全運動の形式的な運動の進め方、死亡事故発生率の都度開かれ、緊急対策会議等のある方について、もう一歩反省と工夫を加味してほしいと思

います。上層幹部、指導者のみの会議や対策のみが、果して末端の家庭にまで浸透してない実情に問題があるのではないかと感じます。そこで私は提言をいたしました。春秋の全国交通安全運動の形式的な運動の進め方、死亡事故発生率の都度開かれ、緊急対策会議等のある方について、もう一歩反省と工夫を加味してほしいと思



(長坂交通安全協会会長)

昭和52年度事業報告

きいろいろ羽根十万本、ポスター三千九百枚、パンフレット五万部、チラシ三万五千枚、横断旗四千七百本、展示写真四百枚

交通安全活動従事者傷害保険事業補助金交付要綱

山梨県交通安全推進協議会、交通安全活動従事者傷害保険事業補助金交付要綱

第一条 この補助金は交通安全活動従事者のため傷害保険に加入した各警察署単位に構成されている交通安全協会(以下地域交通安全協会という)に対し予算の範囲内で補助金を交付することを目的とする。

第二条 この補助金の交付の対象は、交通傷害保険事業を行う地域交通安全協会とする。

第三条 この補助金の額は傷害保険掛金総額の二分の一以内とする。

(長坂交通安全協会会長)

(長坂交通安全協会会長)

(長坂交通安全協会会長)

(長坂交通安全協会会長)

(長坂交通安全協会会長)

(長坂交通安全協会会長)

(長坂交通安全協会会長)



近くを走る車との 相対的な対応がたいせつ

高速道路の走り方

わが国の高速道路は今や約二千二百キロに達し、さらに全国に延びようとしています。私たちの車生活も日に日に高速道路とのつきあいを深くしようとしているのです。

高速道路を利用するとき、走行速度が高いため、きめの細かい配慮のもとで注意深い運転が必要ですが、それにもまして、道路の構造、交通環境、天候条件、運転者の心理、心得などについての知識もたいせつなことです。

とくに、近くを走る車との相対的な関係については、具体的な対応の仕方を知らなくてはなりません。重要なことなので、今回はこうした点に焦点を合わせ、高速道路に多い事故原因をピックアップして「高速道路の走行マナー十則」としてまとめてみました。

走行マナー十則で 高速道路を安全に

- ①ガソリン、水などの点検怠るな。故障車のうち約三〇％がガソリン、水などの初歩的な点検を怠ったためのものである。
- ②あなたを守るシートベルトとドアロック。横転事故では死亡するようなもので、シートベルトをしておれば命が助かることができます。ドアロックも忘れず。
- ③積荷の点検をしっかりと。トランクの予備タイヤ、その他、積荷がしっかりと固定していないため落下し、後続車に死亡事故を起こさせています。
- ④スピードは控えめに。ハイウェイでは、うっかりしているときスピードオーバーしたり、落下物や障害物を避けようとするので、スピードは感覚よりもメーターで、車間距離は十分に。車間距離不足による事故はスピードオーバーとともに、ハイウェイ事故の大きな原因となっています。
- ⑤急ブレーキ、急ハンドルは命とり。高速での急ブレーキや急ハンドルは、必ず



二輪車大会は昨年も盛況でした

二輪車 県大会で入賞し 鈴鹿サーキットへ行く

七月九日免許センターで

第八回二輪車安全運転山梨県大会が、七月九日午前九時から中巨摩郡八田村山梨県運転免許センターで開催されました。

これは山梨県交通安全協会と、山梨県二輪車安全運転推進委員会が主催して毎年開催しているもので、法規に従って正しく安全に運転して事故を起こさないよう、危険なものではありません。夏の季節とともに二輪車の利用者が増えてきます。



死亡事故ゼロ記録更新のPR看板と、ゆっくり運転を呼びかける山かご

バイク試験合格者に 技能講習

二輪車安全運転を推進する県安協・二輪車安全運転推進委員会は、四月二十七日甲府市宝一丁目の二輪車山において、委員会・幹事会合同会議を開催し、昭和五十三年度の二輪車事故防止対策を協議しました。

はじめに、吉田委員長（本会専務理事）が「二輪車は経済的で機動性があるために、かなり普及し、とくにバイクは操作も免許も簡単だといわれて、自転車の感覚から女性や高校生に急速に普及しているが、事故も増加の傾向にあり、その指導、対策を推進していきたい。」と事業方針を述べ、県警本部の酒井交通企画課長が、最近の二輪車事故とくに女性と高校生ライダーの事故を報告し、宮川交通指導課長が、暴走族の状況と、しめ出し対策を述べ、太田運転免許課長は、バイクの技能テストの問題点と講習の義務付けを説明しました。



563日間死亡事故ゼロ 安全作戦で記録更新

市川署管内では、五十一

市川署管内

年十月十六日、下部町管内でこの大会の入賞者には、賞状と賞品が授与され、参加者全員に記念品が贈られます。また、この県大会の各クラスの優勝者は、八月十九日、二十日の両日三重県鈴鹿サーキットで開催される全国大会に参加するようになります。

二輪車愛好の皆さん、高校生の方、皆さん、女性ライダーの皆さん、皆さん、自身のもつ二輪車運転の知識と技術を試してみませんか。そして、鈴鹿の舞台で乗って見ませんか。大勢の参加を待っています。

お問い合わせは、県交通安全協会（電話〇五五二二〇七八二七）へお問合せください。

義弟に買ってやった車の事故 賠償責任があるか？



七月九日運転免許センターで、二輪車安全運転山梨県大会を開催する。⑤十一月二輪車指導員の研修を実施することが決定されました。

②原付免許試験合格者に対する技能講習を一〇〇％実施する。③そのためにも現在の指導員ではとても足りないため、七月七日指導員増員の審査を行う。

七月九日運転免許センターで、二輪車安全運転山梨県大会を開催する。⑤十一月二輪車指導員の研修を実施することが決定されました。

被告は加害者の小山君と義弟の大村さん。未成年者の小山君が乗用車をほしがるので、義弟の大村さんはカローラを買って、大村さんの奥さんが運転保証人になって、代金を月賦で払うこととし、名義は大村さん、使用の本拠地も大村さんの住所地としました。そしてカローラは義弟の小山君の通称用おおよびレジャー用に使用されておりました。小山君の家は農業で、生活は苦しい方です。

裁判所は、このような実情を検討したうえで、次のように判決しました。

カローラは、小山君をその実家の農業に定着させようとして、大村さん夫妻の考えから、未成年で経済力の乏しい小山君に使用させていると推認され、社会通念上、大村さんが小山君の運行に対し支配を及ぼすことができ、かつ、支配管理すべき責務がある運行供用者にあたる……として、「被害者に百二十万円支払え」と命じました。（四十七年二月十日福島地裁判決）

山梨県交通安全協会会員の ための災害共済のお奨め

万人は一人のために一人は万人のために

※ 保険会社の職員が内容説明に伺います。

提供団体 山梨県交通安全協会

引受会社 **協栄生命**

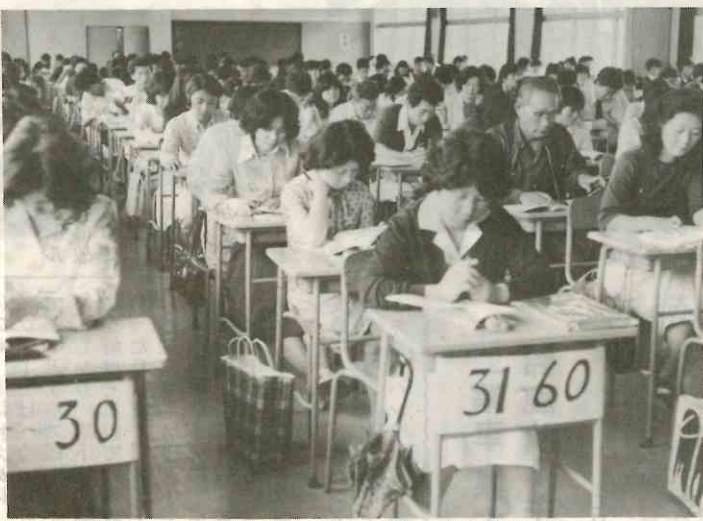
甲府市丸の内三丁目20-3
TEL 0552 (22) 4836(代)

国民皆免許時代を迎える

目立つ女性の急増 * 2.3人に1人が取得者

同庁の調べによると、わが国の運転免許保有者は、昨年十二月末現在で三千七百九十二万九千二百二十二人に達し、前年比で百八十七万人も増えています。特徴は、女性ドライバーが急増していること、男性が三割増とあるのに対し、一三割増となっています。

これは、女性のマイカーの上昇、通勤利用の増加、バイクブームの影響といえます。



学科試験場は受験者でいっぱい 若い女性の姿が目立つ

免許適令人口の十六歳以上に占める割合は、男性が一・五人に一人、女性が四・七人に一人となり、全体では二・三人に一人の割合で免許証を保有していることになりました。

免許保有者が男女別にみると、男性が七五％、女性が二五％で、三対一の割合となっていますが、普通免許と原付免許については女性の著しい増加が目立っています。とくに原付免許は、男性の四・八割増に対して女性は二六・五割も増えています。

警察庁では、こうした免許保有者の急増で、わが国も本格的な「国民皆免許時代」を迎えたとみており、新しい交通体制とドライバー管理のあり方を確立するため、国会で現行の道交法を大幅に改正しました。

なお、本県の場合昨年未だの免許保有者数は三十三万八千八百六十人で、男女別では男性二十二万二千四百七十七人、女性八万六千四百四十三人となっています。女性の占める割合は、二八％です。



交通安全コーナーもにぎわいました

交通安全コーナーもにぎわう

「市民から親しまれる警察」と県警本部主催・県安協等協賛の「市民と警察のつどい」が四月二十三日舞鶴公園で開かれました。会場には千人ほどの見物客が集まり、警察音楽隊演奏パレード、白バイ訓練、

一 交通のなかのこともたち
— ママの交通安全教育—
16ミリ、カラー、二十五分、幼児、母親向。
この映画は、母親学級でのお母さんの勉強会、お母さん達による通園路の点検、事故の多い自宅付近の再点検、安全な歩き方、横断歩道の渡り方、踏切の渡り方などを描き、お母さんがこどもの手をとって、忍耐強く、繰り返し教えることを訴えています。

二 あぶないわんこ
16ミリ、カラー、二十分、小学校低学年向。
こどもの無鉄砲、不注意等の危険な行動傾向を「あぶないわんこ」として捉え、その行動の危険性を理解させると同時に、恐怖感を覚えさせて抑制作用を促し、自発的に正しい態度を養うよう仕向けるのが、この映画のねらいです。

三 お年寄りの交通安全
16ミリ、カラー、二十四分、老人向。
お年寄りに起こりがちな交通事故の事例を、系統的にとりあげ、落語家の桂米丸師匠のユーモラスな解説によって、事故から身を守るために必要な、心構えや留意点を示した作品です。

四 心にブレーキを
— ある交通警察官の願い—
16ミリ、カラー、二十五分、一般、運転者向。
ある都市の警察署交通係

新規購入 映画の紹介

山梨県交通安全協会では新しく次の映画を購入しました。無料でお貸しいたします。ご活用ください。

長加藤警部補を中心に、交通警察官の日常の仕事を追った記録映画です。事故の事例、加害者の取り調べ、受刑者の声、速度取り締まり、飲酒運転の取り締まり、事故死者遺族宅の見舞い等の場面を通じ、若い係長の信条が吐露されています。

五 霧の中のふれあい
16ミリ、カラー、三十分、一般、運転者向。
クルマ社会の安全を確保するために、運転技術と

あなたも写真を

第12回交通安全写真コンテスト募集要綱

県安協では、県警本部等の後援を得て、第12回交通安全写真コンテストの募集を、次のとおり行います。

◇趣旨
交通安全の写真撮影を通じて、交通問題に対する理解と関心を高めるとともにこの写真を用いて展示会を開催するほか、ポスターの作成、機関紙掲載等の方法により、交通安全に対する啓発指導に資するため。

◇題材
第一部 一般的に交通の場面を撮影したもの(道路交通の状況、よい交通、悪い交通、交通安全教育、交通施設、交通安全運動、その他交通安全活動の状況等)
第二部 交通事故現場の状況を撮影したもの。
◇印刷
第一部第二部とも白黒またはカラープリント
◇サイズ

締め切りは 8月15日

白黒、カラーとも四つ切
◇締め切り
昭和五十三年八月十五日
◇送り先
甲府市丸の内一丁目六一(一四〇〇)
財団法人山梨県交通安全協会 電話(五三)七八二七
◇発表
昭和五十三年九月上旬
◇審査員
主催者、後援者の委員および主催者の委嘱する写真専門家

◇賞
第一部第二部共
最優秀賞一名、賞状、賞金二万円
金賞一名、賞金一万円
銀賞一名、賞金五千円
銅賞一名、賞金三千円
佳作若干名、賞金千円
応募者に記念品を贈呈します。

◇応募規定
①応募作品は未発表のもので、他に発表予定のないものに限り、撮影の時期は問いません。
②応募作品には必ずネガを添えて提出してください。ネガのないものは入賞できません。
③応募作品およびネガは返却いたしません。
④応募作品の著作権は主催者に属するものとします。

◇主催
財団法人山梨県交通安全協会
◇後援
山梨県警察本部
山梨県社会部記者会
山梨県交通安全母の会連合会
◇協賛
山梨県写真材料商業協同組合
富士写真フイルム株式会社

運転免許証の更新

運転免許証の更新は安全運転学校(八田村 TEL 05528-5-1122)と、都留分校(都留署西隣り TEL 05544-3-0031)で行っております。

■講習
●月曜日～土曜日(日曜・祝祭日は休校)
■受付時間
●平日 { 午前 8:30～9:30
 午後 1:00～2:00
●土曜日 午前 8:30～9:30



4月から開校した都留分校

■なお原付免許、60才以上、妊産婦の方は、住所地を管轄する警察署で受け付けます。(都留署管内は都留分校で行います。)

バイクも必ず損害賠償責任保険に加入してください。加入しないで運転すると処罰されます。また、万一、加入しないで事故を起こし人を死傷させたなら、損害賠償でたいへんなことになります。

県下一の
広いコースで 早い上達を!

伝統ある当校で
1日も早く免許証を あなたの手に

財団法人
山梨県交通安全協会経営

公認 山梨自動車学校

八田村野牛島1828 山梨県運転免許センター内
TEL 05528-5-0752